

建設経済環境委員会視察報告書

【視察日】 平成29年8月2日（水）～4日（金）

【視察委員】 杉山猛志委員長、平井登副委員長、水野明委員、池田博委員、大石信生委員、多田晃委員、鈴木岳幸委員

【視察先】 (1) 兵庫県豊岡市 (2) 京都府京丹後市 (3) 愛知県日進市

平成29年8月2日（水）

【調査事項】 (1) 兵庫県豊岡市 地域主体交通「チクタク」の取り組みについて

【調査概要】

(1) 市の概要

豊岡市は兵庫県の日本海側に位置し、平成17年4月に1市5町が合併した。

コウノトリの野生復帰に取り組み、「環境と経済との共鳴」が広がりつつあるまちである。

面積 697.55 km²、森林面積率 79.3%

人口 82,250 人、高齢化率 31.6% (H27年国税調査)

(2) 取り組みの経緯・内容

少子高齢化等社会要因により「公共交通の存続が厳しい」地域となった住民が、その現状を受け止め、

「交通弱者を地域で守る」と決断（覚悟）した。それを受けて、市は地域の決断を尊重し実現させるため、市町村有償運送「チクタク」（地区のタクシー）を開始し、支援した。

【同市の市内公共交通4つの体系】

① 路線バス「全但バス」⇒ 中心市街地、地域拠点、地域拠点間の移動性確保

② 市街地循環バス「コバス」⇒ 市街地の回遊性確保

③ 市営バス「イナカー」⇒ 路線バス休止対応・地域拠点間の移動性確保

④ 地域主体交通「チクタク」⇒ 交通空白地域における住民主体の取り組みを市が支援

【チクタクの事業概要】

| | |
|------------------------|---|
| ・事業主体：豊岡市 | ・ダイヤ：地域で決定（週3日運行※病院の診療日等） |
| ・運行委託先：地域の運行組織 | ・停留所：地域で決定（地区内フリー降車） |
| ・使用車両：市公用車（普通自動車）を無償提供 | ・運賃：100円～200円（豊岡市有償旅客運送条例） |
| ・運転手：ボランティア運転手を地域で確保 | ・運行方法：定時定路線運行（予約制） |
| ・事務員等：運行管理者、事務員を地域で確保 | ・運行経費：運転手当：3,000円/日（実働分）、事務委託料：20,000円/月、消耗品費：20,000円/年 |
| ・利用者：地域住民（会員登録性） | |

(3) 今後の課題

過疎地におけるバス会社の撤退も考えられる中、車社会に慣れてしまった意識をいかに教育してバスへの乗車運動を展開していくか、また、ドライバーや事務員の人材確保が課題。

(4) 本市に反映できると思われる点

当市もバス運行が廃止されると思われる地域は住民自体がもっと危機感をもつ必要がある。

この地域のボランティア精神が生まれたのも、行政の根気と熱意による地域との十分な話し合



いが住民主体のチクタクに繋がったと思う。行政は空白地域への根気強い乗車運動の展開が必要だ。

平成29年8月3日（木）

【調査事項】

(2) 京都府京丹後市

住民タクシーについて

(1) 市の概要

平成16年4月丹後6町の合併で京丹後市が誕生。

丹後町を含む京丹後市全域は過疎地域指定。

面積 501.5 km²

人口 56,232 人、高齢化率 34.8%。

（その中でも丹後町の高齢化率 40.8%）



(2) 取り組みの経緯・内容

これまで、公共バスは路線バスのみで運行本数は1日10本（主に幹線道路）だった。

平成20年に町内のタクシー営業所が撤退し、平成26年7月からデマンドバス（上限200円市営バス10人乗り）を運行したがいろいろな課題があり、その解決策として、平成28年5月から今回視察した「ささえ合い交通（住民タクシー）」が運行した。

平成28年5月から今回視察した「ささえ合い交通（住民タクシー）」が運行した。

【住民タクシーの事業概要】

- ・事業主体&運行管理： NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」
- ・運転手&使用車両： 地元のボランティアドライバー（18名）とドライバー所有の自家用車
- ・運行システム： UBER JAPAN(株)のICTによる配車システム（スマートフォンアプリで即時配車依頼）
- ・運行区域： 乗車は丹後町のみで降車は京丹後市全域
- ・料金： 最初の1.5kmまでを480円、以遠は120円/km
- ・支払い方法： 当初はクレジットのみ。2016年から現金支払いも可能になった。
- ・運行時間： 午前8時～午後8時まで（365日の運行）

【法的な位置づけ】

公共交通空白地有償輸送は2015年4月に改正された道路運送法によって京丹後市のような取り組みが可能となった。

＜道路運送法第78条第2号＞

自家用有償旅客運送（白ナンバー）「バス・タクシー等が運行されていない過疎地域等について住民の日常生活における移動手段を確保するため、国土交通省の登録を受けた市町村、NPO等が自家用車を用いて有償で運送する輸送サービスの提供」である。

(3) 今後の課題

- ・丹波町外の病院施設などへの通院往復を可能とする仕組み作り
- ・タクシー料金の半分程度であるが、高いというイメージの払しょくが必要。
- ・代理配車サポーターの人員拡充

- ・高齢者等への格安スマートフォン提供への方策

(4) 本市に反映できると思われる点

- ・中山間地域から藤枝型住民主導の公共交通を研究・検討していく。

平成29年8月4日（金）

【調査事項】

(3) 愛知県日進市

ごみ分別収集の取り組みについて

(1) 市の概要

政令指定都市名古屋市と豊田市の間に位置し、ベッドタウンとして人口が増加。

市内に6つの大学があり学生が多く居住するため人口の流動が激しい。

人口89,202人、面積34.91km²（平成29年4月現在）



(2) 取り組みの経緯・内容

昭和45年度からごみの有料化に取り組み、可燃ごみ・不燃ごみ・プラスチック製容器などの指定袋や、粗大ごみ戸別収集等の有料化を実施してきた。

更に、平成11年度には市の中心部（市役所隣接地）にごみ持ち込み型の資源回収ステーション（エコドーム）を開設し、注目を浴びている。

【エコドーム概要】

- ・財源： ①社会福祉施設等施設整備事業補助金 ②太陽光発電エネルギー財団補助金 ③市内企業寄付金 ④一般財源

・営業日時： 火曜日～日曜日 午前9時～午後5時

・分別種類： 29種類（紙類6品目・布類1品目・プラスチック類4品目・危険物2品目・ビン類3品目・缶類2品目・その他11品目）

・利用者： 平日800人、土日1,200人程度

【特徴】

- ・市民の持ち込みによるごみ処理経費および資源回収経費の軽減。
- ・シルバー人材センターに業務委託（21人が交代）し、高齢者雇用促進のため65歳以上を雇用。
- ・子供用品のリサイクルショップによる再利用。

(3) 今後の課題

- ・駐車スペースや回収資源の保管スペースが不足していること。
- ・資源売却価格の下落で収益が減少し経営が維持出来なくなった時の市の対応。



(4) 本市に反映できると思われる点

- ・日進市は、公共施設、公園、公民館、商店等を活用して、収集日、休日、昼夜を問わず排出できる持ち込み易い資源回収拠点にしているが、当市も品目を増やす等、更なる活用策を考えたかどうか。
- ・当市には民間のリサイクルショップが数件あるため、活用策を検討してみてはどうか。